

# nikko am

Nikko Asset Management

## アジア・ハイイールド債券ファンド (為替ヘッジあり)

追加型投信／海外／債券

### 交付運用報告書

第91期（決算日2019年12月16日） 第92期（決算日2020年1月15日） 第93期（決算日2020年2月17日）  
第94期（決算日2020年3月16日） 第95期（決算日2020年4月15日） 第96期（決算日2020年5月15日）

作成対象期間（2019年11月16日～2020年5月15日）

第96期末（2020年5月15日）	
基準価額	4,482円
純資産総額	338百万円
第91期～第96期	
騰落率	△4.3%
分配金（税込み）合計	250円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

#### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「アジア・ハイイールド債券ファンド（為替ヘッジあり）」は、2020年5月15日に第96期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、日本を除くアジアのハイイールド社債を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<641774>

### 日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号  
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

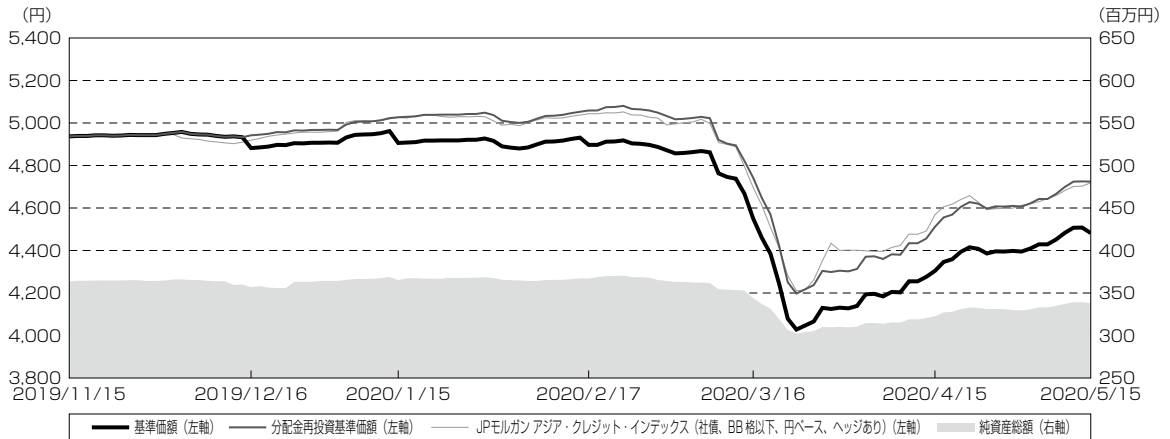
コールセンター 電話番号：0120-25-1404  
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

## 運用経過

## 作成期間中の基準価額等の推移

(2019年11月16日～2020年5月15日)



第91期首：4,937円

第96期末：4,482円 (既払分配金(税込み)：250円)

騰落率：△4.3% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびJPモルガン アジア・クレジット・インデックス(社債、BB格以下、円ベース、ヘッジあり)は、作成期首(2019年11月15日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) JPモルガン アジア・クレジット・インデックス(社債、BB格以下、円ベース、ヘッジあり)は当ファンドの参考指数です。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を除くアジアのハイイールド社債を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

## &lt;値上がり要因&gt;

- ・新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大したことを受けて世界的に景気後退懸念が台頭し、米国国債利回りが低下(債券価格は上昇)したこと。
- ・投資債券からインカム収入を得たこと。

### <値下がり要因>

- ・新型コロナウイルスの感染が世界中に拡大したことを背景にリスク回避姿勢が強まり、アジアのハイイールド債券の信用スプレッド（利回り格差）が拡大したこと。
- ・石油輸出国機構（OPEC）と非OPEC主要産油国で構成された「OPECプラス」の減産協議が決裂したことなどを背景に、原油価格が急落したこと。

### 1万口当たりの費用明細

(2019年11月16日～2020年5月15日)

項 目	第91期～第96期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 26	% 0.547	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
（投信会社）	( 4)	(0.093)	委託した資金の運用の対価
（販売会社）	(21)	(0.438)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
（受託会社）	( 1)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	2	0.050	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
（監査費用）	( 0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（印刷費用）	( 2)	(0.048)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
（その他）	( 0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	28	0.597	
作成期間の平均基準価額は、4,692円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

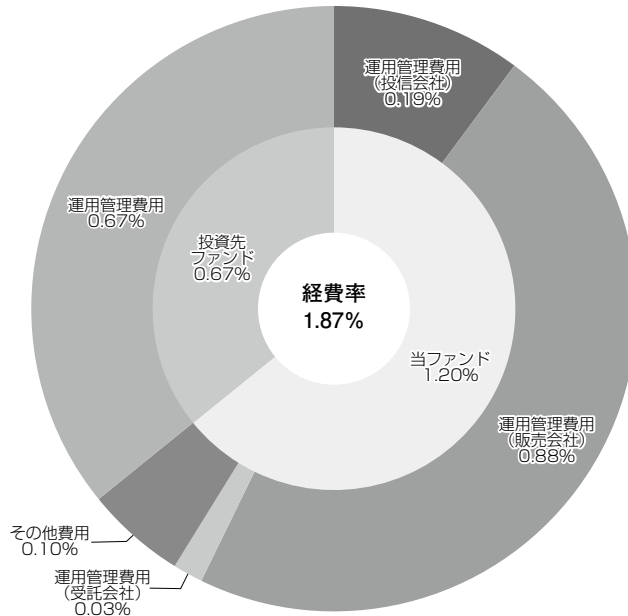
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

## (参考情報)

## ○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.87%です。



(単位：%)

経費率(①+②)	1.87
①当ファンドの費用の比率	1.20
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.67

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

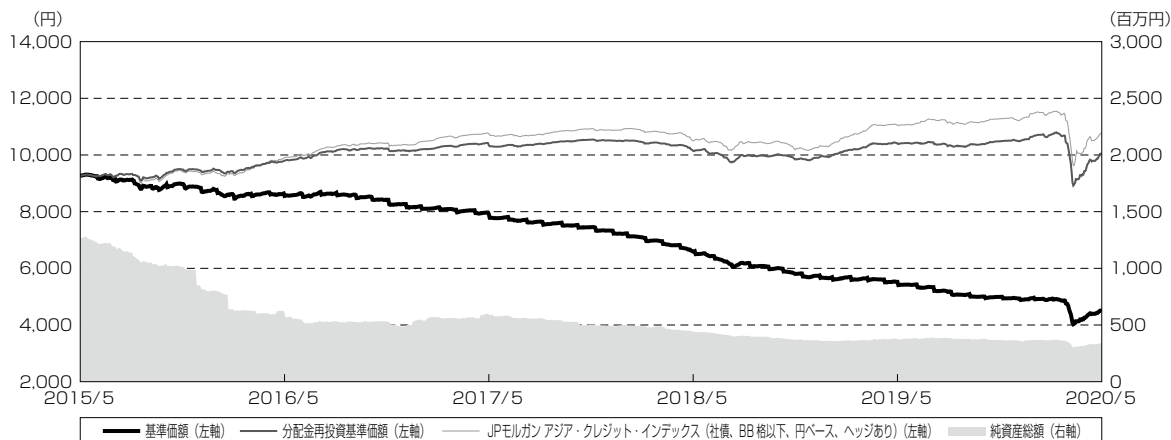
(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、上記には含まれておりません。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2015年5月15日～2020年5月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額およびJPモルガン アジア・クレジット・インデックス(社債、BB格以下、円ベース、ヘッジあり)は、2015年5月15日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2015年5月15日 決算日	2016年5月16日 決算日	2017年5月15日 決算日	2018年5月15日 決算日	2019年5月15日 決算日	2020年5月15日 決算日
基準価額 (円)	9,249	8,554	7,783	6,500	5,407	4,482
期間分配金合計(税込み) (円)	—	1,200	1,200	1,200	1,200	770
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	6.0	5.2	△1.4	2.2	△3.3
JPモルガン アジア・クレジット・インデックス (社債、BB格以下、円ベース、ヘッジあり) 騰落率 (%)	—	7.1	8.0	△1.4	4.6	△2.2
純資産総額 (百万円)	1,261	606	584	435	372	338

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算当日との比較です。
- (注) JPモルガン アジア・クレジット・インデックス(社債、BB格以下、円ベース、ヘッジあり)は当ファンドの参考指数です。参考指数は投資対象資産の相場を説明する代表的な指数として記載しているものです。

**投資環境**

(2019年11月16日～2020年5月15日)

**(債券市況)**

当期間のアジアのハイイールド債券は、米国国債利回りの低下がプラスに寄与したものの、信用スプレッドの急激な拡大がマイナスに影響したことから、マイナスのリターンとなりました。

期間の前半は、米中通商交渉が信用スプレッドの主な変動要因となりました。2020年2月には、新型コロナウイルスの発生を受けて、アジアや世界経済の見通しに及ぼす潜在的な影響が世界の金融市場の焦点となりました。2月末から3月中旬にかけては、信用スプレッドが世界的に大幅に拡大し、アジアのハイイールド債券の信用スプレッドも同様の動きとなりました。新型コロナウイルスの感染者数の急増が報告されたことから、金融市場は安全資産を含むあらゆる資産クラスにわたってボラティリティ(変動性)の急上昇が見られました。また、短期債のスプレッドが拡大し、一時は長期債のスプレッドを上回る規模まで拡大するなど、クレジットカーブ上にも大きな混乱が見られました。このような世界市場の大きな混乱に直面し、世界各国・地域の政策当局は、市場を落ち着かせるための政策や措置を急遽導入しました。当初は小出しでまとまりがありませんでしたが、3月末には世界の金融・財政当局は、より協調的かつ強力な措置を実施し、最終的には世界の主要債券市場を落ち着かせることに成功しました。

期間の後半には、「OPECプラス」の減産協議が失敗に終わったことや、石油需要が減少するなか物理的な貯蔵能力に逼迫が生じたことなどを背景に、原油価格が急落しました。4月以降は、リスクセンチメントの回復が見られました。マクロ経済指標が悪化したにもかかわらず、新型コロナウイルス関連のデータが改善したことを受けて、世界経済が徐々に再開する可能性が高まったとの楽観的な見方が台頭しました。また、米国の製薬会社が新型コロナウイルス治療薬の開発初期段階において一定の成功を収めたと発表したことなどもセンチメントの改善を後押しし、信用スプレッドは縮小しました。とはいえ、信用スプレッドの水準は3月後半からの急激な縮小を考慮しても、2月末の水準対比大幅に拡大しています。

**(国内短期金利市況)**

無担保コール翌日物金利は、期間の初めの $-0.06\%$ 近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、 $-0.04\%$ 近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券(TB)3ヵ月物金利は、期間の初めの $-0.21\%$ 近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、 $-0.13\%$ 近辺で期間末を迎えました。

**当ファンドのポートフォリオ**

(2019年11月16日～2020年5月15日)

**(当ファンド)**

当ファンドは、収益性を追求するため、「アジア・ハイイールド・ボンド・ファンド クラスB (JPYヘッジド・ユニット)」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

**(アジア・ハイイールド・ボンド・ファンド クラスB (JPYヘッジド・ユニット))**

当ファンドでは期間中、世界的な成長懸念や米中貿易摩擦の再燃などを警戒し、市場に対して慎重な見方をしていたことから、ポートフォリオのデュレーション(金利感応度)を短めとしました。また、経済的圧力に対する脆弱さを考慮し、質の高いクレジットを選好し、現金保有比率を高めるなど、保守的な運用を行ないました。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないました。

**(マネー・アカウント・マザーファンド)**

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コール・ローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

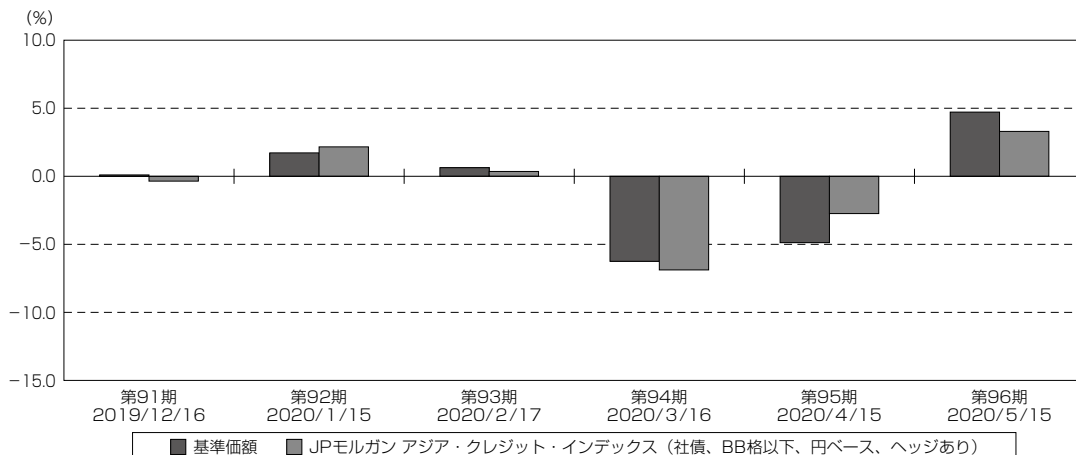
## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2019年11月16日～2020年5月15日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率です。

基準価額と参考指数の対比 (期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金 (税込み) 込みです。

(注) JPモルガン アジア・クレジット・インデックス (社債、BB格以下、円ベース、ヘッジあり) は当ファンドの参考指数です。

## 分配金

(2019年11月16日～2020年5月15日)

分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第91期	第92期	第93期	第94期	第95期	第96期
	2019年11月16日 ～2019年12月16日	2019年12月17日 ～2020年1月15日	2020年1月16日 ～2020年2月17日	2020年2月18日 ～2020年3月16日	2020年3月17日 ～2020年4月15日	2020年4月16日 ～2020年5月15日
当期分配金 (対基準価額比率)	60 1.214%	60 1.208%	40 0.810%	40 0.871%	25 0.578%	25 0.555%
当期の収益	45	47	40	40	25	25
当期の収益以外	14	12	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	21	8	13	19	40	64

(注) 対基準価額比率は当期分配金 (税込み) の期末基準価額 (分配金込み) に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。



## 今後の運用方針

### (当ファンド)

引き続き、「アジア・ハイイールド・ボンド・ファンド クラスB (JPYヘッジド・ユニット)」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

### (アジア・ハイイールド・ボンド・ファンド クラスB (JPYヘッジド・ユニット))

アジアのクレジット市場は、投資家が経済活動のより大規模な再開による不確実性の一段の解消を待つ間、不安定な状態が続くとみえています。

期間の終わりにかけては、中国で景気回復の兆候が見られたことや、欧州や米国で新型コロナウイルスの感染拡大の勢いが一服したことを受けて、市場環境は回復しました。その結果、世界経済がいずれ再開するだろうとの楽観的な見方が広がっています。また、足元の景気悪化による痛みを和らげるための財政出動や中央銀行の断固とした措置も、リスクセンチメントの回復を後押ししています。とはいえ、急激な経済活動停止による経済成長の大幅な鈍化を考慮すると、市場は不安定な状況が続く可能性が高く、ファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)には引き続き下押し圧力が残ると予想されます。さらに、この景気減速の深さや長さには不確実性があり、原油市場の混乱も重しになっています。新型コロナウイルスのパンデミックを、ソーシャルディスタンス(社会的距離)を保つことにより食い止められるかどうか大きな鍵を握っています。しかしながら、経済活動の再開は段階的なものになるとみられ、経済がすぐに正常な状態に戻るということは考えられません。

新型コロナウイルスの感染拡大が収まれば、相場の上昇と銘柄選定によるアウトパフォーマンスを実現できる可能性があると考えています。世界各国・地域の政府が発表した金融・財政・信用政策の相乗効果は、2020年後半に世界経済の大幅な回復を促す可能性があります。ただ、新型コロナウイルスの原因を巡る先進諸国と中国との間での非難合戦は注視すべきリスク要因であり、大きな問題に発展する事態になれば、グローバルにリスクセンチメントが再び悪化する可能性があります。

主として、日本を除くアジアのハイイールド社債を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。ポートフォリオに組み入れる銘柄については、慎重に選別していく方針です。

外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないます。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

### (マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コール・ローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

## お知らせ

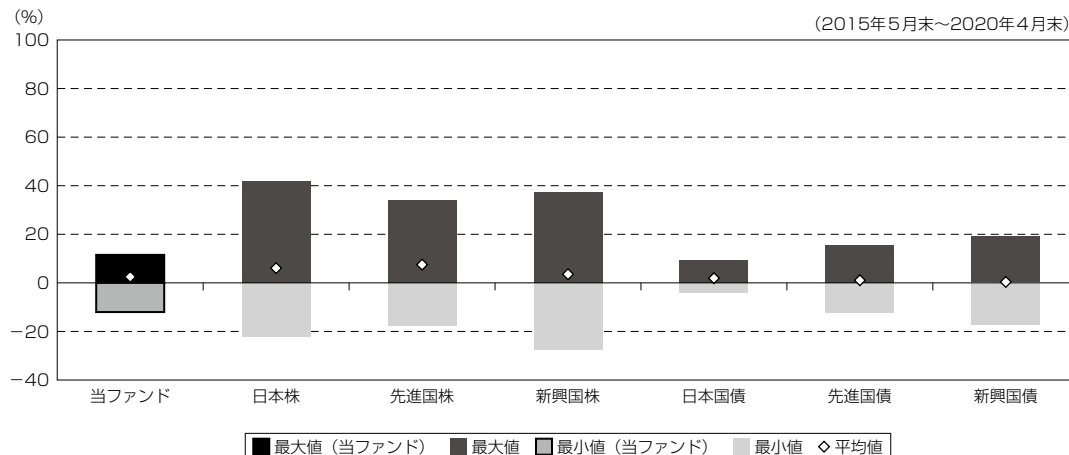
2019年11月16日から2020年5月15日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	2012年6月12日から2022年5月16日までです。
運用方針	主として、日本を除くアジアの高利回り社債を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「アジア・ハイイールド・ボンド・ファンド クラスB（JPYヘッジド・ユニット）」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、日本を除くアジアの国・地域の企業などが発行する米ドル建てのハイイールド社債に実質的に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。市況動向などに応じて、主要投資対象となる外国投資信託の純資産総額の30%までハイイールド社債以外の投資適格社債などに投資する場合があります。また、流動性などを勘案して、主要投資対象となる外国投資信託の純資産総額の10%までソブリン債券に投資する場合があります。その他、必要に応じて現地通貨建ての社債に投資する場合があります。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行ないます。
分配方針	第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	11.5	41.9	34.1	37.2	9.3	15.3	19.3
最小値	△12.0	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	2.5	6.1	7.5	3.5	1.9	1.1	0.4

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2015年5月から2020年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI国債

先進国債：FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPMorgan GBI-EM グローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村證券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPMorgan GBI-EM グローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2020年5月15日現在)

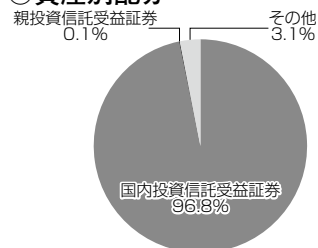
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第96期末
	%
アジア・ハイールド・ボンド・ファンドクラスB (JPYヘッジド・ユニット)	96.8
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

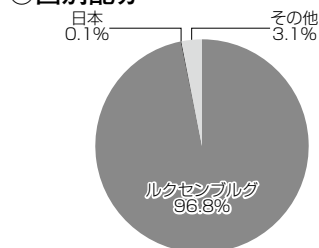
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

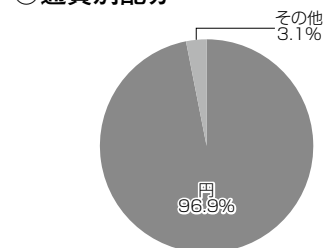
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍(邦貨建)の受益証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

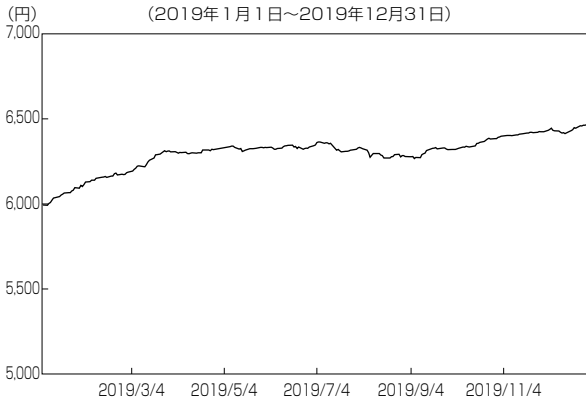
項目	第91期末	第92期末	第93期末	第94期末	第95期末	第96期末
	2019年12月16日	2020年1月15日	2020年2月17日	2020年3月16日	2020年4月15日	2020年5月15日
純資産総額	356,831,489円	365,315,497円	366,958,603円	343,709,953円	322,604,750円	338,045,426円
受益権総口数	730,915,291口	744,567,301口	749,366,386口	755,180,486口	749,603,439口	754,148,480口
1万円当たり基準価額	4,882円	4,906円	4,897円	4,551円	4,304円	4,482円

(注) 当作成期間(第91期~第96期)中における追加設定元本額は79,356,517円、同解約元本額は61,366,377円です。

組入上位ファンドの概要

アジア・ハイールド・ボンド・ファンド クラスB (JPYヘッジド・ユニット)

【基準価額の推移】



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2019年1月1日～2019年12月31日)  
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2019年12月31日現在)

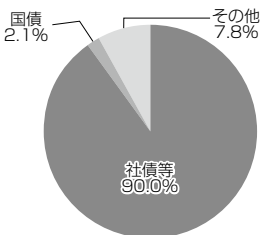
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	Yango Justice International Ltd. 9.50% due 04/03/2021	社債等	アメリカドル	香港	4.0%
2	Chong Hing Bank Ltd. 5.70% due 7/15/2024	社債等	アメリカドル	香港	2.6%
3	Mong Duong Finance Holdings BV 5.13% due 05/07/2029	社債等	アメリカドル	オランダ	2.6%
4	RKPF Overseas 2019 A Ltd. 7.88% due 02/01/2023	社債等	アメリカドル	英領バージン諸島	2.1%
5	Ronshine China Holdings Ltd. 11.25% due 08/22/2021	社債等	アメリカドル	ケイマン諸島	2.1%
6	Medco Straits Services Pte Ltd. 8.50% due 08/17/2022	社債等	アメリカドル	シンガポール	2.1%
7	Development Bank of Mongolia LLC 7.25% due 10/23/2023	国債	アメリカドル	モンゴル	2.1%
8	Champion Sincerity Holdings Ltd. 8.13% due 2/8/2022	社債等	アメリカドル	英領バージン諸島	2.1%
9	Agile Group Holdings Ltd. 8.38% due 12/4/2023	社債等	アメリカドル	ケイマン諸島	2.1%
10	Kaisa Group Holdings Ltd. 11.95% due 10/22/2022	社債等	アメリカドル	ケイマン諸島	2.1%
	組入銘柄数			44銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

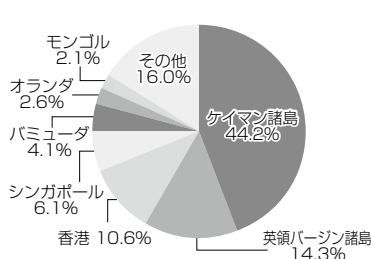
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

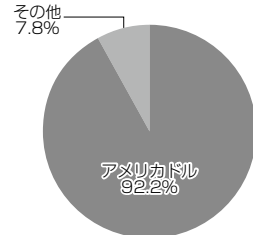
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



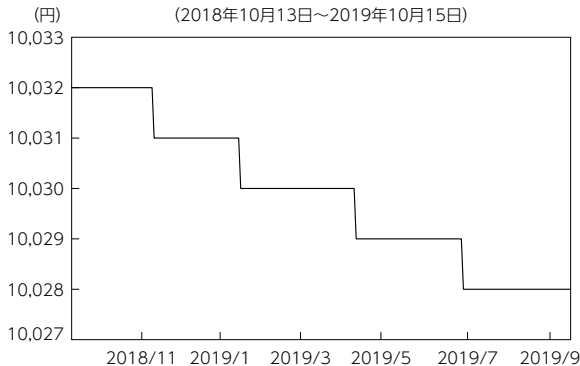
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2018年10月13日～2019年10月15日)



【1万口当たりの費用明細】

(2018年10月13日～2019年10月15日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 費 用 ( そ の 他 )	1 (1)	0.005 (0.005)
合 計	1	0.005

期中の平均基準価額は、10,029円です。

- (注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2019年10月15日現在)

2019年10月15日現在、有価証券等の組入れはございません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。